

けせんぬま 普及センターだより

ひとつずつ 明日と未来の なるさとへ!

気仙沼いちご
宮城県産

特集 今年度の普及活動実績

■トピックス

- ・気仙沼いちごが東京のレストランのメニューに採用
- ・みやぎ農業未来塾を開催しました
- ・女性交流研修会が開催されました ほか

■竹駒産業文化賞受賞

■農作業事故を未然に防ぎましょう!

■土壌分析をしましょう!



今年度の普及活動実績

1 担い手を核とした地域農業の継続・発展（令和5～6年度）

【対象】表山田・三段田地区の中心経営体2経営体及び主要農家8人（気仙沼市）

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区の水田は、小面積かつ不整形で、農業従事者の高齢化の進行・作業性が悪く収益性の低下により、地域農業の維持が難しくなっています。そのため、担い手へ農地集積を図り地域農業の継続・発展を目指しており、その支援を令和5年度から実施しています。



役員による打合せ会

①担い手の明確化、地域農業の将来の在り方の合意形成

ほ場整備推進委員会との打合せや話し合いを行い、地区内の地権者や関係者など60人に対し、活動状況やお知らせなどを記載した情報誌「かわら版」を定期的に発行しました。きめ細やかな情報共有を図った結果、担い手の明確化や将来に向けたあり方について合意が得られました。

②高収益作物の検討支援

高収益作物の試験栽培を実施し、候補品目として「えだまめ」が選定されました。えだまめの大規模栽培を見据えて収穫時期の分散化を図るため、播種時期の検討などを行った結果、3回に分けた段播きで収穫時期の分散化が図られました。

③省力化技術向上支援

水稻作業の省力化や作期分散を目指して、水稻乾田直播や大麦栽培、農業用ドローンを用いた追肥や防除など省力化技術により、更なる規模拡大が可能との結論になりました。



えだまめ試験ほ場

2 枝もの用クロマツ栽培における若松の商品化率の向上（令和6年度）

【対象】株式会社南三陸Pine Pro（南三陸町）

健全な苗を確保するための自家育苗、定植後の初期生育確保に向けた発根促進・雑草対策について調査区を設置し、1年間継続調査を行いました。また、収穫・出荷調製作業を効率化するための改善提案、生育中及び収穫後の品質向上を目指し、支援を行いました。

①苗活着率向上と初期生育量確保の支援

苗作りのため6月に播種したクロマツは、概ね順調に生育したものの、夏季高温や雑草繁茂の影響のほか、カモシカなどの野生動物のほ場侵入により被害が拡大し、苗数が20%減少しました。

苗定植後は雑草繁茂による生育抑制が問題となるため、登録薬剤の少ないクロマツでも利用できるように除草剤の適用拡大試験に取り組み、除草効果の確認とクロマツの生育調査結果を農薬メーカーを通じて国へ申請しました。

②収穫・出荷調製作業の改善支援

クロマツの収穫作業について安全性の提案を行い、ヘルメットにフェイスガードを装着して作業に当たるようになりました。

出荷調製作業では、作業の流れが一筆書きになるように機械の配置について提案したところ、重要なベルトコンベアーの移動はベルト調整が難しいためプロに頼む必要があるとのことで今年度は断念しました。

③生育中及び収穫後の品質向上支援

クロマツの栽培適地は肥料分が少なく排水の良い礫混じりの赤土ですが、葉色が黄化しやすいため、収穫前にマグネシウム資材を葉面散布することで葉色が濃くなることを昨年度の試験で確認しました。

今年度も収穫前に葉面散布をする計画でしたが、収穫予定のほ場は葉色が濃緑色であったため、散布は中断し、出荷調製後に保管している製品の品質維持に方針変更しましたが、保管中にも目立った葉の黄化が無いことから経過観察のみ行いました。



苗ほ場の除草作業



出荷前のクロマツの姿



3 生食用ぶどうのブランド化による生産拡大（令和6～7年度）

【対象】南三陸大粒（おおつぶ）ぶどう協議会（会員9人）（南三陸町）



南三陸町のぶどう生産者で構成する「南三陸大粒ぶどう協議会」では、高品質ぶどうの生産・ブランド化による生産拡大を目指しています。普及センターでは、ぶどうの生産拡大による新たな産地形成に向け、協議会の取組を支援しました。

①ブランド化支援

話し合いの場の設置等により会員の意見集約の支援を行い、町の特徴である海と里山をイメージしたブランド名として「しおかぜ葡萄」に決定し、ロゴデザイン、ポスター等が作成されました。販売に当たり会員による目揃え会を開催し、果実品質等の目合わせが行われました。9月7日には「さんさん商店街」でのお披露目販売会開催を支援し、販売開始前から行列ができるなど、ブランドの認知度向上・販売促進に繋がりました。テレビや新聞にも多く取り上げられるなど、ブランド化に向けて順調なスタートを切ることができました。



お披露目販売会の様子

②栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

巡回指導や栽培研修会の開催により技術力向上を支援しました。本年作は栽培に重要な管理が概ね適期に実施され、前作まで果実品質が悪く、販売に至らなかった会員も販売できる品質になるなど、技術習得が図られました。また、協議会では町の未利用資源（メタン発酵消化液、貝殻残渣等）を活用した土づくり等の実施を独自の栽培要領に定めています。この要領に基づいた生産を支援するため、試験施用や実演会等を行い、会員各自が未利用資源を利用した取組を実施することができました。



ロゴシールを貼った「しおかぜ葡萄」



気仙沼いちごが東京のレストランのメニューに採用されました

気仙沼市階上地区では8人の生産者が、甘みと酸味のバランスが良い「とちおとめ」、大粒の果実とさわやかな甘さが特徴の「もういっこ」等を栽培しており、総栽培面積は約2haとなっています。気仙沼市内への販売は、完熟に近い状態で出荷しており、「気仙沼いちご」として地元の人たちに親しまれています。

地元で人気の気仙沼いちごですが、優れた食材を首都圏等へ発信する県の「みやぎ食材出会いの旅事業」の一環で、東京のシェフが「A新みやぎ階上いちご部会」のほ場を視察したことが契機となり、東京ミッドタウン日比谷にあるレストラン「ドローイングハウス・オブ・ヒビヤ」にて、気仙沼いちごが食材として採用されました。

令和6年12月から令和7年2月にかけて「宮城県産 苺と蔵王チーズを使用した軽やかなガトーフロマージュ」としてメニュー化され、気仙沼いちごを首都圏へPRできました。



宮城県産 苺と蔵王チーズを使用した軽やかなガトーフロマージュ



本吉響高校の生徒を対象に「みやぎ農業未来塾」を開催しました

スマート農業技術を身近に感じて興味・関心を深めてもらうため、令和6年12月4日、宮城県本吉響高等学校の生徒10人を対象に「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。株式会社南東北クボタNB推進課及び県農政部農業振興課を講師に、スマート農業に関する講義及び農業用ドローンを使った空中散布の実演を行いました。

実演では、高校の水田ほ場を会場に、講師から農業用ドローンの性能や省力効果などを説明していただきながら、自動操舵を含む4つの作業モードによる空中散布を実演しました。初めて農業用ドローンを見る生徒も多く、実際に飛行する様子を熱心に観察していました。生徒からは、ドローンの性能等に関する質問が多く出され、スマート農業技術に関心を深めている様子でした。



ドローン飛行実演の様子

トピックス 3

女性交流研修会が賑やかに開催されました

気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の女性交流研修会が令和6年11月29日に開催され、グループ員19人が参加しました。

初めに講演が行われ、非営利活動法人ウィメンズアイ南三陸事務所の栗林美知子所長から女性の社会参画をテーマに活動の経緯や内容を紹介していただきました。続いて3班に分かれ、若い世代に継承するための協議会活動についてワークショップが行われました。いずれの班もグループ員が積極的に意見を交換して盛り上がり、交流も深めた様子でした。



意見を出し合ったワークショップ

トピックス 4

議論を重ね地域計画の策定へ

農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律が施行され、市町村は令和7年3月までに将来の地域農業の姿を描いた「地域計画」を策定することになりました。

当管内の気仙沼市は7地区、南三陸町は4地区で地域計画を策定するため、昨年度から地区ごとに説明会や協議の場等が設けられ議論を重ねてきました。協議の結果を踏まえ、関係機関への意見聴取や案の公告（縦覧）を経て3月中には策定される見込みです。策定された後も、年1回以上の進捗管理を行い、随時更新される予定です。



関係機関による連携会議

情報 ①

竹駒産業文化賞受賞 おめでとうございます

竹駒神社（岩沼市）が、郷土の農林水産業等産業振興に功績のあった個人や団体に授与する第69回「竹駒産業文化賞」に、阿部博之氏（南三陸町）が農業（個人）の部で選ばれ、令和6年11月23日、授賞式が挙行されました。

阿部氏は、南三陸町入谷地区で水稻や果樹を栽培しながら、新規就農者等の相談役として技術指導等のニーズに応じた支援を行い、担い手育成に尽力してきました。また、子供たちへの農業体験や食育活動のほか、会長を務める南三陸大粒ぶどう協議会でのぶどうの生産振興など、里山の資源を活用した地域活性化に長年にわたり寄与されました。



情報 ②

農作業事故を未然に防ぎましょう！

春の農繁期が近づいてきました。近年、様々な農業機械の普及、農業従事者の高齢化等により、機械操作のミス、過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき、依然として農作業死亡事故が発生しています。

安全対策を確認するとともに、お互いに声を掛け合い、農作業事故を防ぎましょう。

情報 ③

土壌分析をしましょう！



土壌分析を行うことで、ほ場に残っている肥料成分量を調べることができるため、次作での適切な施肥が可能となります。普及センターでは、土壌分析を随時受け付けていますので、是非ご利用ください（事前に電話をいただくと助かります）。

【土の採取方法】

1. 均等になるように、ほ場5か所から深さ15cmの作土層を採取します。採取した土は1つにまとめ、150g程度（お茶碗1杯分）になるようにします。
2. まとめた土を袋に入れて、気仙沼農業改良普及センターに提出していただきますが、採取した場所がわかるように、袋には「ほ場番号」を忘れずに記載してください。



宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6 TEL：0226-25-8068 FAX：0226-22-1606

URL：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html

